

平成30年度第1回三木市総合計画策定審議会の概要

(委員意見部分)

日時:平成30年12月3日(月)

午後2時～午後4時

会場:三木市役所4階特別会議室

(委員)

- ・資料2については、目標設定の幅広さに感心するが、それらを本当に達成できるのかと疑問に思う。また、「三木市」という文字を消せばどこの総合計画か分からないが、それで本当に三木市の総合計画にふさわしいのか。
- ・選択と集中をして、伝統や今の強みを伸ばした延長線上に明るい三木市があるのか、それとは別に「こんなまちになりたい」ということでこれから進んで行くのか、どちらなのかと思う。いずれにしても目標全部に取り組むのは大変ではないか。テーマを3本つくるのは分かりやすいので良いが、資源、人にも限りがある以上、三木市の将来としては必要なものを取捨選択するという考え方が必要ではないか。

(会長)

- ・国や県の施策としては、防衛や介護・福祉、教育、戦略産業等、全てに予算を出せば良いが、資金は一定で、政治・行政的に、最終的に予算の配分を決める必要がある。この審議会は、いろいろな年齢層、お仕事、お住まい、分野も違う方が揃っているので、本日はそれぞれ思っておられることを、後のことは考えずに夢を語っていただきたい。三木市に飛行場をとというのは無理であるが、例えば西神中央駅から緑が丘まで地下鉄を延伸すると三木市は活性化するのでは、というのでもよい。ただし最終的に落としどころをどうするかは、ご一任をいただいてまとめていくことになる。可能な範囲で、「三木市」という固有名詞を外したらどこの計画か分からないものではなく、金物、山田錦、ゴルフ場等を地域資源とし、できるだけ特性を考えながら総合計画をつくれたらと思う。

(委員)

- ・いろいろな項目があって、すべてにおいて100点満点をとろうとすることは不可能である。そのため、いずれかの項目に集中するべきであり、我慢を

してもらふことも当然出てくる。三木市の特色が生まれるようなものを取り組んでいくべきだろうと思う。

- ・ 2001年から2005年までドイツのシュツットガルトに住んだ経験がある。ドイツは、面積が日本とほぼ同じで、人口は約8000万人と、日本のおよそ3分の2である。丘陵地帯が多く、比較的ゆったりした地域になっている。経済競争力は高く、トルコ周辺からの移民も多い。また、地方分権が強く、人口が集中した都市は無い。一番集中している都市といえばベルリンであるが、それ以外はそれぞれのまちが独立しているというイメージを受ける。なぜそのように独立できるのかと考えると、医療技術は進んでおり、子育てへの支援も手厚く、スポーツではサッカー場もあり、ゆったりした生活環境であるため、地方に魅力がある。また、仕事の間があり、仕事と住む場所が近接しているということもあり、地方で住む人が多い。日本は転勤族が多いが、ドイツで転勤の話が出れば住んでいる地域の中で違う所に就職するという考え方がある。国民性や宗教が違うので一概には言えないが、仕事と生活ができるだけ密着している方が生計も成り立つし余暇の過ごし方が豊かになる。例えば子どもと遊ぶ、スポーツをする、農業するといった過ごし方である。そのような価値観をすぐに浸透させることは難しいが、少しずつでも変えていけるのではないか。日本では中央集権的な面が強いので、そのような仕組みはできないが、人生、生活面からすれば、充実できるのではないかと思う。仕事と住まいを近づけるためには産業育成が大切であると思っている。

(会長)

- ・ 人口が減少すると、ものを買う人が減少し、高い付加価値のあるものをつくる人も減少するので成長しなくなるのではというのは事実である。一方で、日本の人口の推移をみると、明治維新时期には3,000万人、1945年終戦時には7,000万人、1,970年万博の年に1億人を超え、2008年に人口減少が始まる時に1億3,000万人弱、高度成長期には成長しているから人口は増えたが、逆に言うとそれでもっていた。ドイツは東西が統一したので人口は増えているが、イギリス、フランス、イタリアがほぼ同じような面積で各6,000万人。日本は格差が少ないのは事実ではあるが、ドイツ等から学ぶことはあると考えられる。ヨーロッパは地方が疲弊していない。アメリカ合衆国は疲弊しているが、それは近代的な重化学工業が疲弊しているからであろう。ヨーロッパは昔ながらの文化や遺産などを大切にし

ている。

(委員)

- ・アンケートの結果については、市民アンケートの回収率が43.2%というのは分かるが、職員アンケートの回収率が56.4%というのは、策定の当事者として低いと感じる。もう少し高い回収率があってもよかったのではないかな。
- ・資料2に関しては、基本方針で「暮らし」が冒頭にあって、一つ目のここだけが「人」と「暮らし」が並立しており重複感がある。二つ目の見出しだけ見ると「防災に強いまち」は理解できるが、「暮らしに必要な環境」ということで、インフラ関係の快適性、利便性があり、テーマが「安全・安心」のワードにとどまっているので、快適性、利便性がこの見出しでは見えないのではないかな、三つ目にも「利便性」があるが、どう整理していくのか。
- ・私の専門の学校教育は「人」づくりで、人口減少を見据えた複式学級への対応、学校の統廃合は避けられないテーマとなってくるが、流出を抑え、転入を増やすという意味では、子育て世帯の転入者を増やしていくためのアピールポイント、三木で子育てすることの利点や魅力、既存の特色、強みを学校教育の中でいかに見出ししていくか、アピールできるかを一緒に考えていきたい。

(委員)

- ・三木市は、金物が全国で有名であり、山田錦についても日本一と、誰もが謳い文句で言われるが、産業の内容がどうであるのかが問題である。総合計画のテーマの3つとも今はできておらず、問題になっている部分だと思う。困ったこと、問題になっていることを改善させることが目的なので、もっと具体的な方法を考えて提案していかなければ、総論で終わってしまい、結論が出ないのではないかな。

(委員)

- ・このまちは高齢者が増えていくまちであるが、高齢者が元気なまちでもある。もっと外へ出ていきたい人がいるが、PRが下手なのか、交通の便や集う場所が認知されていない。また、病院の待合、窓口が交流の場であったのに病院が無くなり、どこへ行ったらよいのかという声を聞く。その中で、子どもは減ってきている。そこで、高齢者が子どもと交流する縦のつながりをもつ

とつくれば、高齢者が活躍できる場もでき、子どもも核家族が多い中で人との関係性をつくるのが下手な面を克服して多様な人間関係をつくれる。縦のつながりを強くする施策をつくり、どこへ行っても誰とでも関係性がつくれるような子どもたちと高齢者が、お互いに頼るのではなく、自立しながらも困ったときには助けてもらえるようなまちづくりをしていただきたい。

(委員)

- ・ 6年生と4年生の子どもがおり、母を介護中の、いわゆるダブルケア中である。
- ・ 地域の中で市民活動をしていて思うことがある。
- ・ 明石市は里親を市内に浸透させているが、同様に地域で子育てすることを三木市全体、特に人口が減少している地区で取り組むのはどうか。
- ・ 子育てに関しては、学校給食を完全米食化する、牛乳全廃するなど、特色を出すと、子育て環境で引越されることはある話なので転入者が少しは増えると思う。そういう人は、まちづくりに関しても積極的に関わってくれるのではないか。
- ・ 自治会とPTAの役をしているので、持続可能な仕組みづくりをしようと思うが、今は、年度が変わり、役をしている人が変われば途切れてしまう感じが多い。
- ・ バスは、何歳以上は無料にして、外出してもらおうようにする、ICカードは手続き等が大変そうなので、思い切って無償にして、外へ出た先でお金を使ってもらおうようにする。
- ・ 市民活動をしているので、草の根的な活動をしている人に行政が手助けや焦点を合わせて歩み寄るような仕組みになればよいと思う。

(委員)

- ・ 三木市は新興住宅地と旧市内と田舎で構成される。田舎はバスぐらいしか交通手段がないが、新興住宅地は神鉄があり、バスも充分走っている。

(会長)

- ・ 神鉄は市の西南をかすめている。北部はバス以外交通機関がない状況である。

(委員)

- ・ バスも夕方5時には無くなる。自治会に対して十分な補助金が出ており、た

だ行事をするだけではなしに、安全・安心なまちづくりということで、防犯灯もLEDにする際に、補助金を出していただいた。そのことが市民に、はっきり伝わるようにしていくことが大切である。安全・安心に住めるまちづくりということは以前からやっておられる。

- 私たちは単独の自治会で、向こう3軒両隣というわけではないが、子どもを連れて越してきている世帯が最近多い。自治会でも新しく建った家には、子どもを連れて、子どもがいなくても出産で転入してくる人が多い。幼稚園の保育料も無料だから越してきたという人もいるので、情報をもっと前面に出していく必要がある。
- 資料2の基本方針の「手を差し伸べることができる心優しい人々のまち」については、隣近所、仲良く、みなさんそうされている。体の調子が悪かったら声掛けをしてくれる。民生委員もよくやっているのでありがたいと思っている。私も1級の障害を持った母を介護したが、近所の人が助けてくれたおかげで何の不自由もなかったため、三木に越してきて良かったと実感した。自分がしていただいたことを何か恩返しできればと高齢者のところにも行っており、そのような小さな活動も大切と思う。地域の中で高齢者が1人暮らしで寂しい思いをしないように、自治会の役の人、民生委員さんも活動している。
- 農村部に交通網があれば人の交流ができるが、バスで行くと帰ってくるのに困る。5時までには無くなるので、車を運転できない人達の助けがいる。三木市全体でバスが網羅されて、地域の隔たりが無くなることが望ましい。

(委員)

- 結婚を機に志染へ越してきた。妻は三木市が初めてで、日本海まで出るのではと思ったそう。三木市の事は何も知らなくて22年がたった。住んでみて、三木市は自由にのびのびすごせて子育てしやすいし、中学校も荒れていないので、良かったかなという点はある。スーパーも近いので、日々の暮らしに不便は感じない。週末どこかに出かけるとなると市外に出ることが多い。私の勤めは市外、子どもの大学は市外、娘も市外、息子も就職するとなると市外になると思う。
- 交通が不便で、地下鉄が緑が丘付近まで延伸してくれば、神鉄は困るだろうが、人口は増え、三木市で誇りを持てる。子どもは就職までには三木市から出ていくだろう。三木市に留まらせようとするれば、雇用の場が必要である。大きい企業を誘致するのも大事だが、起業したいときの相談ができる、実際

に小さい企業を育てていくことができればよい。

(会長)

- ・一応そういう所は三木市にはある。

(委員)

- ・金物、山田錦は有名だが、だからどうだというイメージがあり、それをベースにもう1歩を踏み出してほしい。勤めている会社は樹脂の原料をつくっているが、樹脂に代替するものを金属加工の技術を生かしてできないか。
- ・妻が言うには、旧三木市の図書館のような古い建物をカフェや雑貨店とかにすれば女性が集まり、家族も来る。ナメラ商店街等の歴史あるものが新しい建物を建てて失われており残念に思うが、三木の歴史のあるレトロな建物、情緒を生かして雑貨店、カフェとか、女性が集まってくる場所、小さいところをいっぱいつくってほしい。
- ・自然が多いので、水力・風力発電の取組をしてほしい。太陽光発電はたくさんあるが、川も多くあるので、それによって新しい雇用も発生するのではないか。
- ・ゴルフ場では、これからのプロが育つ。三木サッカークラブもあるが、例えば高校にゴルフ部をつくると、そういうのを目的に移り住んでくることも期待できる。
- ・誇りをもって私は三木が好きなので期待する。

(委員)

- ・社会福祉協議会会長の立場でいろいろな人と接する機会に恵まれたが、三木の人々は、やさしさ、またボランティア精神をもっていることを最近強く感じている。具体的な数値で言うと、三木のボランティア活動センターが把握しているボランティア団体の数が400あり、周辺の地域と比べて断トツに多い。個人の方も趣味を基本にし、いろいろな団体があり、寄付をもらうこともある。三木の企業や個人をはじめ、子どものための貯金を子どもが先に亡くなったのでという方もある。三木市民が持っている強み、自利ではなく他の人のために尽くそうという精神が三木市に根付いているというのが実感である。
- ・「誇りを持ってらせるまち」といわれると、私は誇りを持って生きているつもりであるが、もっと誇りを持とう、あなたは誇りを持っているかというこ

とを問われているような表現で、心外な気もする。

- これからのキーワードとしては、行政が縦割りということで分野横断的な、特に福祉分野では横断的な対応をしていかないとやっていけない。障害者の子どもと高齢者の共生型の福祉を国も模索しているが、三木市が20年先を行っているのであれば、おそらく日本にモデルはないので、三木市が先進的な取組を進めて行かないといけない立場にあるのではないか。他にモデルを求めるのではなくて、三木の現状の強みをしっかりとらえて各課横断的に、誰もが共生できるまちをめざしていく。子どもたちも20年たてば立派な大人になって、三木にいてくれるようになってほしい。

(委員)

- この歳になって、三木はいいなと思うようになってきた。生まれも育ちも三木で、以前は三木に住んでいるのが恥ずかしいと思っており、都会に出たかった。定期代が高かったし、都会で働きたいと思っていた。
- 昨年三木の防災士の講座を受講し防災士の資格を取ったが、受講生250人、三木市民の応募が減ってきている。無料かつ充実した講師陣で、今年は家族も講座を受けさせた。この審議会の募集もどうやって知ったのか、いいものがあるのにその情報が市民の端々には届かない。広報や新聞には載っていても、新聞は取っておらず、新聞を取っていないと広報も届かない。広報は自分が希望しているので届けてもらっているが、そうでないと情報が届かないので、もったいない。
- ママは子どものためにはこんなにするのかということが多い。保育所に入れている人、私のように家庭教育している場合もあるが、ある程度の時間があるのと能力があるお母さんが多くいると思う。手話の講座に行っているが、託児又は託児の補助があればよい。保育料は、2歳まで半額、3歳以降は無償化というのはありがたいが、自分で選んでいるのであるが、家庭保育している身にはあまりメリットがなく、託児の補助があればママの時間と能力がさらに向上する講座や研修に行ける。また、託児をしてもらうことにより他の友達、ボランティア団体等とのつながりができるのでうれしいと思う。
- 父は退職して家で託児をしてくれているが、仕事をしている人の方が、元気で長生きすると聞いたので、社会に出てほしい。関連する資料等を渡すがなかなか1歩が出ないので、高齢者も活用してもらえればと思う。

(委員)

- ・青年会議所の立場でこの審議会に来ているが、個人的な想いを言う。三木生まれの三木育ち、学生の際は神戸に通っていたが、定期代が高かった。結婚して子どもが生まれて4年間多可町に住んでいたが、三木に帰ってきたくなくなったのは愛着があったからだと思う。多可町に比べると交通の便は良いが、神戸も三田へも車で行き、車ありきの生活である。車で通勤しているが、変な渋滞が多く、着く時刻がまちまちである。夢だが、三木市で車が無くても便利に暮らせるまちになればいい。

(委員)

- ・資料2は、取り組んでいく課題が、括弧の中に言葉としてでてくる。これを、一つ一つどうしていくのか。多すぎるので、もう少し包括したほうがよい。

(会長)

- ・こういう計画は、総花的になる。これから一つ一つ詰めていくが、もしも議論の中で要らないものがあれば言うていただいてもよい。

(委員)

- ・要らないものはないが、非常に困難だなと感じる。
- ・何に誇りを持つのか、歴史、風土、暮らしやすいまちなのか、治安が良いのか、これだけでも範囲が広い。60年以上住んでいるので、誇りも持っているし、自然も大好きである。具体的に物事を進めるには、例えば“めざせ、住みたいまちベスト10入り”などがある。

(会長)

- ・それは重要なことで、三木のブランド力のようなものである。

(委員)

- ・住みたいまちとは何なのかを、具体的に洗い出して、例えば、金物、山田錦、ゴルフ場のまち、これをどう深めていくのか。これから出て来るとは思うが、どのように進めて行くのか。山田錦は、旧三木市と吉川町が合併したので1番の生産量、それを維持するためにはどうしたらいいのか、もっと外にアピールするにはどうしたらよいか。例えば多可町の中町では、山田錦の里として、10月1日の日本酒の日に20年も前から加藤登紀子を呼んでブランド名を高めている。

- ・三木市はアピールポイントがあり、今後どのようなまちにしようとするのか興味を持っている。これはできないだろうというくらいの発想をもってきて、掲げていく必要があると思う。

(委員)

- ・30年間、衣料関係の仕事をしていた。メーカーは神戸市に進出したいが、土地代等が高い。その近くに三木市があると考えれば、交通条件、物流面で、良い地理的条件にあるので、利用すべきである。他力本願ではないが、神戸市があるので神戸市に引付けて行けばいいのではないかと。神戸市で成功したものや人材が三木市にも入ってくる。
- ・三木駅が無人駅と知らなかった。昔から有人駅への要望はあったようだが、実現しておけばよかった。多少強引でも、何でもやるべきであると思う。スマートインターも、三木市が良くならなければ小野市も良くなれない。何かあった時には瀬戸内の沿線よりも三木市の土地が有利になってくる。うまく利用して施策を打てばどうか。
- ・お金がなければ何もできない。自治会もそうで、地域で儲けられるものがあるればそれをうまく運用すればよいと思う。

(委員)

- ・今後も、ゴルフ場、山田錦、金物、を中心に進んでいくのではないかと。老人クラブの責任者の立場で言うと、全国的な状況ではあるが、高齢者は増えているが、会員人数は8,000人から4,500人に減少している。公共交通機関、医療施設については、市民病院が非常に遠い。バス交通も一時からすれば良くなったが、バス停まで行けない高齢者もいるので、どうするのか、
- ・老人クラブも合併したので大変良くしてもらっている。

(委員)

- ・地震後、平成7年10月22日に吉川町民になった。資料2は「三木市」を外せばどこでもあるような感想である。今月号の広報の2、3ページ目にアンケートの結果が載っているが、資料1の総合計画策定方針の2頁目に策定体制として、アンケート、パブコメ、市政懇談会、三木若者ミーティングがあり、横のつながりをうまく利用しながら、計画に向かって審議会を進めていただければと思う。大変難しいことなので資料1の左をもとにこの目標に向かって作成すればと思う。

- ・民生委員をしているが、なり手が少ないので苦慮している。来年、全国的に改選があるので、今の場を借りて伝えたい。

(委員)

- ・やさしいまち、明るい未来をどのようにつくるのかを委員で議論していく。
- ・分野横断は最終的に振り分けられるのかと思うが、スケジュールがタイトで、審議会の開催は3回となっている。テーマ3つの下の9つのレベルで毎回1つずつの開催ぐらいではないかと思うが、資料が出てきて各論にはいれば議論しやすいのではないか。
- ・市民参画に中学生もあってもよいのではないか。中学校の数が多いので参画が難しいかもしれないが、アンケートが考えられる。他市では、高校生とは現状の持っている意識が違ったおもしろい結果が出ていた。

(副会長)

- ・課題が集積しているように思う。総合計画は、三木市が20年後、全体的に、また、産業や福祉などの各分野ではどういう姿になってほしいのかといった目標を立てる。100年間で達成することとは違う。具体的な目標を示さないと、完成形が歪なものになってしまう可能性がある。誰もが理解できるような20年先のイメージをこの総合計画の中に浮かび上がらせることに事務局の方も努力していただきたい。さまざまな分野の20年後の姿を想像し、5年後、10年後、その姿にどれだけ近づけるかということが目標になってくる。
- ・本日の意見は、100年先にできていることもあるし、5年先、10年先に実現できることもある。どこにでもある姿ではなくて、三木市独自の未来を描く、そのためには弱点を克服することも課題であると思う。まずは、現状を分析して、課題を20年間でどこまで解決できるのかということを明らかにすればその姿に近づけることができるのではないか。
- ・交通の問題が出ていたが、南北方向の縦の線が弱い。東西方向の横は中国道、山陽自動車道を、国も県も地元自治体も力を入れて整備をしてきた。例えば縦の弱さがこの地域のネックになっている、そういう交通網が全体として20年先にどう描かれているのか、鉄道も道路もバスもどういう形になっているのかの姿をまず描いていく、その上に施策をのせていくことが重要である。
- ・三木市は磨けば光る素材が多くあると思っている。その素材をできるだけ輝かせるような事業に結び付けていくことが必要である。